



2018年1月24日
東日本旅客鉄道株式会社
新潟支社

現 美 新 幹 線
「GENBI SHINKANSEN」
～アート作品の一部とカフェメニューをリニューアルします～

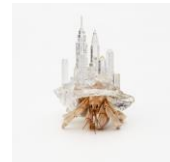
- 「GENBI SHINKANSEN」(現美新幹線)は、2018年4月で運行開始3年目を迎えこれまで多くのお客さまにご利用いただきました。
- 本年は新潟県内の「越後妻有地域(十日町市・津南町)」及び「新潟市」で、3年に一度の大きな芸術祭が開催されます。新潟エリアのアートに注目が集まるこの機会に、現美新幹線のアート作品の一部とカフェメニューをリニューアルします。
- 新しいアート作品・カフェメニューは、2018年3月31日(土)よりお楽しみいただけます。新潟の旅に新たな魅力をお届けする、世界最速の芸術鑑賞「GENBI SHINKANSEN」をどうぞご利用ください。

1. 新しいアート作品について

16号車は新たにAKI INOMATA^{あきいのまた}氏が手掛けた映像作品となります。引き続き13号車は古武家賢太郎^{こぶけけんたろう}氏、14号車は石川直樹^{いしかわなおき}氏が担当し、新しいアート作品を展示します。是非ご期待ください。

■ 16号車(映像作品) AKI INOMATA^{あきいのまた}

美術家 AKI INOMATA の代表作である《やどかりに「やど」をわたしてみる》シリーズは、3Dプリンタで制作した透明な殻をやどかりに渡し、やどかりが気に入れば引越してもらおう作品です。これまで東京、ニューヨーク、パリなどの大都市や、中国の天壇、メキシコのグアヤキルなど、世界各国の建築物をあしらったやどをやどかりが背負う姿が日本だけでなく世界各国で注目を集めてきました。これらの作品を2018年3月31日(土)から展示いたします。また、新潟の美しい里山を舞台にした作品(新潟里山編)を製作しています。新潟里山編の展示開始日については、改めてお知らせします。



© AKI INOMATA / MAHO KUBOTA GALLERY

■ 13号車（絵画） こぶけ けんたろう 古武家 賢太郎

現美新幹線カフェに現在の展示中の作品”Kaido-niigata”を発展させた大型の新作を発表いたします。人々が行き来した三国街道、新潟の美しく雄大な山並み、豊かな里山風景などそこにある歴史をテーマにした作品を制作します。街道には人と自然とを結ぶたくさんの物語があったはず。越後湯沢と新潟を結ぶ鉄道の旅、現代と昔を繋ぐ風景を作り出します。新潟の里山と街道の景色の中で、ゆっくりお茶を楽しむことができる新しい空間が誕生します。



© [Kentaro Kobuke](#) / MAHO KUBOTA GALLERY

■ 14号車（写真） いしかわ なおき 石川 直樹

石川直樹氏は、2001年 世界最高峰エベレスト（標高8848m）に登頂し、七大陸最高峰登頂を達成、その後、2011年に別ルートから二度目のエベレスト登頂を果たします。その後もヒマラヤの山々に中判フィルムカメラを携えての撮影を繰り返し、2015年、14座ある8000メートル峰の中で最も危険とされる世界第二位の高峰K2（8611m）に向かいました。これは、パキスタンのカラコルム山脈上にあるK2の頂へ向かう途上で撮影された作品群になります。流動する新幹線の車内から、岩と雪の世界に今この瞬間も根を下ろし続ける怪峰K2への旅をお楽しみください。



©石川直樹 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

（敬称略）

2. 新しいカフェメニューについて

13号車カフェスペースでは、菓子研究家のいがらしろみ氏監修による「十日町すこやかファクトリー」で製造したスイーツや、燕市の「ツバメコーヒー」監修によるこだわりのコーヒーを提供しています。この度、カフェメニューに新潟ならではの現美新幹線オリジナルスイーツが新たに登場します。この機会にご乗車いただき、ぜひご賞味ください。

■ 佐渡バターの笹団子風ケーキ

新潟名物笹団子をアレンジしました。お茶にもコーヒーにもよく合う現代的な笹団子風ケーキです。

■ 雪下人参のキャロットケーキ

新潟の雪の下で越冬させることで甘味が引き出された雪下人参をたっぷり加えたキャロットケーキです



※画像は全てイメージです。また、内容やリニューアル時期は変更となる場合があります。

■今回作品を提供いただくアーティストについて

AKI INOMATA

1983年東京都生まれ。2008年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。2012年第15回岡本太郎現代芸術賞にて入選。2014年YouFab Global Creative Awardsにてグランプリを受賞。2017年ACGの招聘でニューヨークに滞在。移民・難民・国籍の交換可能性をテーマとし、3Dプリンターで出力したプラスチック製の「やど」をヤドカリに渡す「Why Not Hand Over a “Shelter” to Hermit Crabs?」シリーズを始め、飼犬の毛と作家自身の髪でケープを作ってお互いが着用する「I Wear the Dog's Hair, and the Dog Wears My Hair」など、動物と共に制作した作品を多く発表。近年の主な展覧会に2017年「Coming of Age」(Sector 2337、シカゴ)、2016年「ECO EXPANDED CITY」(WRO Art Center、ヴロツワフ、ポーランド)、「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」(茨城県北地域6市町)、2015年「エマージェンシーズ! 025 『Inter-Nature Communication』 AKI INOMATA」(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] / 東京)、などがある。2018年はASIAN ART AWARDのファイナリストに選出され展示を行うほか、タイのクラブで開催されるThailand Biennale Krabi 2018にも参加が予定されている。

<http://aki-inomata.com/>



© AKI INOMATA / MAHO KUBOTA GALLERY

古武家 賢太郎

広島県生まれ。1998年桑沢デザイン研究所卒業。2009年 ロンドン芸術大学 チェルシーカレッジ ファインアート(MA)修士課程修了、現在ロンドンを拠点に活動を行う。自然木の板に色鉛筆で直接描き込んでいく独特の手法で、神話や童話からの引用をイメージさせる幻想的なペインティングを制作。トランスアヴァンギャルドの再来を思わせる表現の豊かさの中に象徴的なモチーフを潜り込ませている作風が評価されている。また、「手紙」をテーマにした「Letters」のシリーズでは、封筒や紙といったメディアに宿るコミュニケーションの形跡をポエティカルに綴っている。他分野との協働も多く、これまでに商業ビルのコミッションワークやアパレルブランドとのコラボレーションなども手がけた。主な展覧会・プロジェクトに、2017年 エディオン蔦屋家電コミッションワーク(広島市)、2017年個展「ヒロシマカラー」(MAHO KUBOTA GALLERY / 東京)、2015年「17th DOMANI・明日展」(国立新美術館 / 東京)、2012年 個展「Letters」(なかた美術館 / 尾道)、2011年 個展「MOKUME」(Daiwa Foundation / ロンドン)、2010年「The Frank Suss Collection」(Phillips de Pury & Company, Saatchi Gallery / ロンドン) などがある。

<http://www.kobuke.com/>



© Kentaro Kobuke / MAHO KUBOTA GALLERY

石川 直樹

1977年東京都生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。2008年『NEW DIMENSION』(赤々舎)、『POLAR』(リトルモア)により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞。2011年『CORONA』(青土社)により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)ほか多数。写真集に『湯と里山』(青土社)、最新刊『知床半島』(北海道新聞社)、『Svalbard』(SUPER LABO)など。2017年 新潟市美術館にて個展『この星の光の地図を写す』を開催した。同展覧会を2018年4月より高知県立美術館にて巡回予定。

<http://www.straighttree.com/>



©石川直樹 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

※画像は全て各アーティストのこれまでの作品です。新作とは異なります。

現 美 新 幹 線

「GENBI SHINKANSEN」の編成図

※2018年3月31日（土）以降

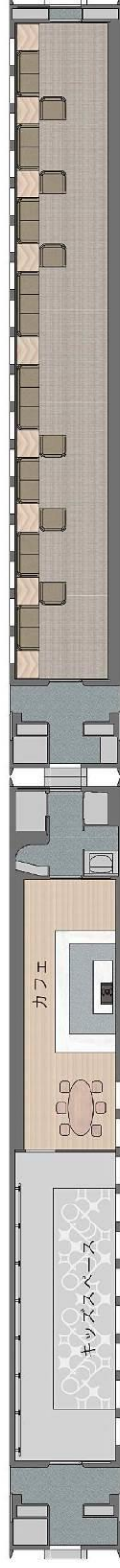


まつもと 松本 尚 (絵画)

11号車

こまゆ 小牟田 悠介 (平面)

12号車



NEW

パラモデル paramodel (絵画・彫刻) 古武家 賢太郎 (絵画)

13号車

NEW

いしかわ 石川 直樹 (写真)

14号車



NEW

こうじん 荒神 明香 (立体)

15号車

あき いのま 赤木 映子 (映像)

16号車